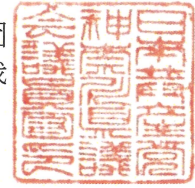


2022年10月19日

神奈川県教育長 花田 忠雄 殿

日本共産党神奈川県議会議員団  
団 長 井坂 新哉**県立高校改革に県民の意見を十分に反映するため  
余裕ある検討期間と議論の保障を求める申し入れ**

県立高校改革第Ⅲ期実施計画（案）が、9月29日に発表されました。

私たちは2016年当時から、主に次の二点を理由として県立高校改革に反対してきました。第一は、無理な特色づけを各校に当てはめることによって学校から多様性を奪っていること、第二は、再編統合に伴う高校の削減が教育環境の悪化につながることです。このように、「改革」の全体像についての議論はこれまでも一定なされてきたと考えています。

ところが、今回第Ⅲ期実施計画案に伴う統合対象校と定時制募集停止の対象校の発表が、常任委員会開催日と同日となりました。また、常任委員会に先だって県民に向けて行われたパブリックコメントでは、第Ⅲ期計画の具体案も示されていませんでした。

以前から県立高校改革の考え方やスケジュール等は示してあるとの説明ですが、再編統合の当該校にはどんな事情があるか、また、募集停止の選定が妥当かなどは、具体的な計画に基づいての論議が必要です。

さらに、定時制高校について全体計画では「1学年2学級以下の規模を標準」と書かれているにすぎず、募集停止については、県民、議会にも知らされず、唐突なものでした。

県民や関係者から「やり直しができる社会に定時制高校は必要」、「公教育は、事情を抱える人を救い上げる機能を持ってほしい」、「翠嵐高校など3学級存在している高校について、いきなりの募集停止は乱暴過ぎる」、「夜間中学をつくったのに進学先がなくなる」などをはじめとして、多くの声が寄せられています。

教育委員会は10月25日に開催され、ここで正式決定されるとのことですが、具体的な計画案についての常任委員会審議も県民からの意見聴取も保障されないままでの正式決定では、議会と民意の軽視といわなければなりません。

どのような施策であれ、住民要望にどれだけ沿ったものであるかは、政策決定の大きな要素です。県立高校改革に県民の意見を十分に反映させるため余裕のある検討期間と議論の保障が必要です。

これらのことから以下の事項を申し入れます。

## 記

- 1 県立高校改革第Ⅲ期実施計画（案）については、教育委員会の正式決定の前に、具体的提案についての県民意見の聴取及び十分な議会での議論を保障すること。
- 2 今後、具体的な計画案の発表は、県民と議会が十分に論議できるようにすること。また、議会に対しては、日程的余裕を持たせるために常任委員会開催前に具体的な計画案を示すなど、十分な検討を可能とする期間を保障すること。

以上



2022年10月25日

神奈川県教育委員会

教育長 花田 忠雄 様

横浜翠嵐高校定時制の存続を求める会（仮称）準備委員会

## 県立高校改革実施計画（Ⅲ期）（案）に関する要望書

県立高校改革実施計画（Ⅲ期）を拙速に承認・決定しないでください。

教育委員のみなさまにおかれましては、日ごろ神奈川県の教育支援発展のためにご尽力くださり、たいへん感謝申し上げます。

9月29日、神奈川県教育委員会は「県立高校改革実施計画(Ⅲ期)(案)」を発表しました。その「課程・学科等の改編による適正配置（定時制）」の中で、横浜翠嵐高校、向の岡工業高校、磯子工業高校、茅ヶ崎高校、秦野総合高校、伊勢原高校の6校を2026年度以降募集停止とするとしています。

夜間定時制高校には、発達に特性のある生徒や義務教育段階で不登校だった生徒、高校入学の学齢を過ぎた生徒、「学び直し」のための生徒など、さまざまな背景を持ち、個別の対応や支援を必要とする生徒が多く通っており、「教育のセイフティネット」となっています。特に横浜翠嵐高校定時制は県下随一のターミナル駅である横浜駅から近く、今年度の入学生も30名を超えており、全校生徒も100名以上と、夜間定時制高校の中では、規模も大きく、また、通学範囲も広い地域にわたっています。

横浜翠嵐高校定時制は、在日外国人の多く住む中区や南区に近いこともあり、来日間もない生徒、生活のため働きながら学ぶ必要のある生徒など、外国につながる生徒を多数受け入れてきました。

神奈川県の多文化教育コーディネーター派遣事業の立ち上げに際しては、外国につながる生徒が多く在籍する学校として、特別募集枠を持たないながら、初年度から派遣対象校4校の一つとなりました。また、校内組織にも外国につながる生徒支援担当を位置づけ、外国につながる生徒の支援・指導に取り組んできました。

特に各教科の「取り出し授業」（個別対応授業）だけではなく、教育課程に日本語や母語保障のために「中国語母語」といった授業をきちんと位置付けています。また、外国につながる生徒とその家族が抱える生活の課題に向き合い、さまざまな学校外の支援者とも連携し、幅広い支援に取り組んできました。こうした、外国につながる生徒をはじめとする多様な生徒の支援の実績が積み重ねられてきたことは、横浜翠嵐定時制に在籍するすべての生徒にとって大きな財産となっています。

こうした横浜翠嵐定時制の取り組みは、県内のみならず、県外の学校関係者、外国人教育・多文化共生教育の研究者からも高い評価を受けています。なのに、なぜ募集停止になるのか納得できる理由が見当たりません。

・校舎の老朽化を理由とするなら、2011年、2021年と大規模な耐震リニューアル工事を行



なっており、定時制のみ募集停止にする理由にはなり得ません。

・全日制との重なりが理由なら、翠嵐に限らず、ほとんどの全日・定時併置校は廃止しなければならなくなります。

・交通の利便性においても、翠嵐より神奈川工業がすぐれているとは言えません。翠嵐の最寄り駅である横浜駅は、JR線、京急線、東横線、横浜市営地下鉄が通るターミナル駅で、バス便も多く、特に夜間の交通の便は、神奈川工業より優れていると考えられます。中区、南区に多い外国につながる生徒たちが、神奈川工業に通うことは逆に不便になります。

・翠嵐で取り組んできた外国につながる生徒支援は、約20年の長きにわたって蓄積されてきたものであって、全く別の学校である神奈川工業で簡単に引き継げるとは思えません。それより、翠嵐定時制での取り組みをより発展させることの方が、神奈川の教育全体にとってプラスになると考えます。

以上のように、理由が見当たらない募集停止の発表は、外国につながる県民や、生徒・若者支援にかかわる多くの関係者に、驚きと深刻な懸念をもって受け止められています。

私たちは県教育委員会の発表に危機感を覚え、緊急のオンライン集会を10月10日に開きました。急な呼びかけであったにも関わらず、36名の参加がありました。そして現場の教職員、支援者、地元の中学校関係者、卒業生、ボランティアで補習教室を運営している市民からお話を聞きました。参加者アンケートでも、多くの方が、横浜翠嵐高校定時制が募集停止となることを憂慮する言葉を書いています。そして多くの方が横浜翠嵐高校定時制の存続を求める運動への参加の意思を表明してくれました。(その一部と寄せられた声を添付資料として付けました)

正式な会の発足はこれからですが、有志が集まり「横浜翠嵐高校定時制の存続を求める会」(仮称)の準備委員会を立ち上げました。そして、10月25日の教育委員会に向けて、委員の方々に私たちの声を届けようという趣旨でこの要望書をお送りする次第です。

ぜひとも、今直ちに、県立高校改革実施計画(Ⅲ期)(案)」を承認・決定されることなく、パブリックコメントを募集するなど、広く県民の声を聞いた上で、この案の見直しを検討していただくことを要望致します。

横浜翠嵐高校定時制の存続を求める会(仮称)準備委員会  
呼びかけ人

遠藤正承(元横浜翠嵐高校定時制教員・現東京都立高校非常勤講師)

大沢朝美(元横浜吉田中学校教員)

笹尾裕一(かながわみんとうれん共同代表)

鳥山 洋(元横浜翠嵐高校定時制教員・現東日本部落解放研究所事務局長)

舟知 敦(全国在日外国人教育研究協議会会長)

山根俊彦(神奈川の外国人教育を考える会事務局長)

この件の連絡先 XXXXXXXXXX (山根)

### 1010 オンライン参加者の声

・募集停止という発表があって、寂しさとともに、私自身翠嵐の経験っていうのは、いろんな年代いろんな経験をしている友達を尊重しあえる環境っていう3年間を送れたのは非常に大きい経験だったので、そういった場がなくなってしまう可能性があるというのは、寂しさとともにこのままでいいのかなって思いを感じました。定時制で学べたことというと、人間関係の部分が大きかったかなと思います。私自身中学校のころはあまり学校に行けていなかった不登校だったのですけれども、そんな中で高校へ進学して、色々な不安や緊張の真っ只中だったところで「こんな自分でもいいんだ」っていう、そのありのままの存在を認めてもらえる環境があったっていう事は定時制がより強みとする部分なのだと思います。そこでやり直せた、もう一度自分も尊重し大切にしながら周りも大切にしているっていう経験をつめた事は非常に大きかった3年間だったなあと思います。  
(横浜市：卒業生)

・これまでの多文化共生の教育を実践されている翠嵐高校定時制の取り組みに敬服いたします。募集停止に強く反対いたします。東京の定時制高校からも訴えたいと思います。一人の神奈川県民としても、できることをしていきたいと思えます。  
(都立高校教員)

・ぜひこの動きを大きな流れにして、声が届くといいです。これからも応援させていただきますし、何かできることがあればと思います。  
(川崎市在住：ボランティア教室)

・これまでのご支援の歴史と、そのご苦勞の一端を知ることができました。学校の存続のため、微力ながら、できる限りのご支援をさせていただきたいと思えます。(横浜市：行政書士)

・多様なルーツをもった生徒を受け入れる場がなくなってしまうかもしれないという状況に衝撃を受けました。(東京都；弁護士：翠嵐高校全日制卒業)

・卒業生の方の言葉「ありのままを認めてもらえた場だった」「自分を大切にしながら周りも大切にできた3年間だった」が印象に残っています。  
(横浜市：行政書士)

・文化祭などでの全日制との関わりが意義深いものになっていること。外国籍の生徒の人数が多いこと。卒業生の、中学での人間関係と違い、高校では受け止められたと感じたという主旨の感想。等々の話が印象深かったです。

(翠嵐高校全日制旧職員)

・色々な背景を持つ子どもたちにとって、定時制高校は、一つの選択肢です。ぜひ存続を求める活動を続けてください。

(東京：研究者)

・募集停止は定時制の意義を軽く感じているような印象がしました。多様な生徒の学びの場を今後も公の場として作っていくのであれば、その中心的な経験を持つ横浜翠嵐高校定時制の生徒募集停止は適当ではないと思います。

(横浜市：看護師)

・横浜翠嵐高校定時制がさまざまな生徒の皆さんの居場所として貴重な場であることがよくわかりました。今後の経過を注目しています。存続のために何か協力できればと思います。

(元県立高校教員)

#### 卒業生から届いた声

・自分の母校をなんとか残したいと思います。コロナ禍で、海外から来る生徒たち少なくなったかもしれませんが、コロナが終わったら、たくさんの生徒が日本に入るはずです。私たちのような学生にとって、翠嵐定時に入ったからこそ、大学にも入れましたし、大学を卒業後就職も決まりました。高校でできた友達は今でも付き合っています。このまま閉校したら、私たちの青春の証がなくなるとは違うないので、すごく残念に思いました。私と同じ考えを持った方もたくさんいるはず。なんとか、閉校だけにはならないように、お願いします。

(横浜市：卒業生・中国出身)